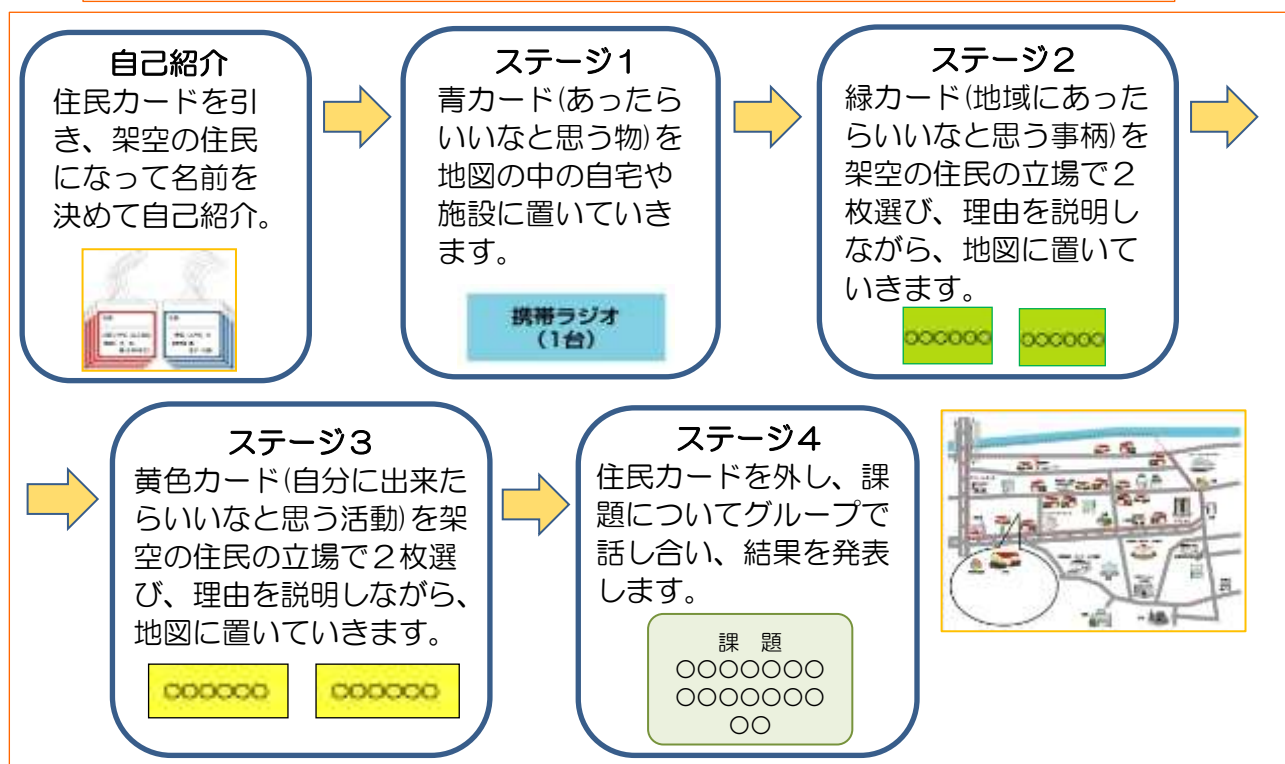


少子高齢化に伴い、ひとり暮らしの高齢者の増加や災害時の要援護者支援の問題等、従来の地域コミュニティとは異なる様々な問題を抱えていた状況の下に東日本大震災が発生し、私たちは「日頃からの備え（自助）」と「人のつながり（共助）」の大切さを改めて気づかされました。

東日本大震災を体験した仙台市民として震災の教訓を後世に伝えていくことが使命であると考え実行委員会を立ち上げ、仙台市と協働で将来にわたり震災の教訓が伝わるように「なすことにより学ぶことのできる」防災ゲームの開発に取り組みました。

私たちが開発した「SSG仙台発そなえゲーム」は、参加者一人一人が架空の住民になって「災害に備えるために、自分や地域に何が必要か・何ができるか」について考えながら実践的に防災・減災を学ぶことができる体験型のボードゲームです。

【ゲームの流れ】 ゲーム時間：100分／グループ人数：6～8人



このゲームの特徴は参加者が架空の住民10～80代の男女のいずれかになりきり、その立場で災害への備えを考えることにあります。それは地域に住んでいる様々な世代の住民に気づき、思いを巡らすことにつながります。

被災地・仙台から全国へ世界へ発信し、「SSG仙台発そなえゲーム」が活用され、災害時の防災・減災に役立つツールになることを強く願っています。